


もんだい 1	答えは①の「ニ上山産安山岩」です。 それぞれ、サヌカイト (①「ニ上山産安山岩」)、下呂石② (「下呂産安山岩」)、 黒曜石 (③「豊岡産流紋岩」) と呼ばれる石材です。 滋賀県を含め、近畿圏では遠隔地でしか産出しない石材として、主にサヌカ イトを入手して石器を作っていました。
こたえ ①	サヌカイトは、石を割った際の割れ目が非常に鋭く堅いため刃物として利用 するのに非常に向いていたからだと考えられています。 また、サヌカイトは叩くと非常にきれいな音色を奏でることから、かつて昭 和39年(1964)の東京オリンピックの開会式では、サヌカイトを使った石 琴の音楽が奏でられました。

もんだい 2	答えは①の「和琴」です。 琴の歴史は古く、日本では弥生時代になると登場し、一枚の板からなる板作 りのものと、共鳴槽 <small>きょうめいそう</small> という箱型の構造を持つものに分かれます。 この中沢遺跡から出土した和琴は、共鳴槽を持つ和琴で、写真手前の突起の 根元に、弦をかけるためのものとみられる孔が空けられています。 共鳴槽を持つ琴は古墳時代以降も発展を続け、現在雅楽に使用されている 「和琴」へと変化していくという説もあります。
こたえ ①	

<p>もんだい 3</p>	<p>答えは③の「6軒」です。</p>
<p>こたえ ③</p>	<p>そもそも、脇本陣とは、本陣の繁忙期である参勤交代の時期や、急な旅程変更などで利用者が重なったとき、利用する人数が多く本陣だけでは泊まりきれない場合などに、大名や公家などの休泊所となる宿のことです。</p> <p>通常は旅籠屋として営業しており、一般客も利用することができました。</p> <p>※本陣は、利用者がいない時であっても一般客は利用できません。</p> <p>草津宿では時代によって脇本陣の軒数は変動しますが、大黒屋弥助、藤屋与左衛門、仙台屋茂八、平井屋彦右衛門、柏屋重右衛門などの旅籠屋から、時々に応じて2～4軒が脇本陣を務めました。</p>

<p>もんだい 4</p>	<p>答えは②の写真です。</p>
<p>こたえ ②</p>	<p>瓦器は窯を用いて硬質になった素焼きの土器をいぶし、器全体が瓦のような質感となった土器のことです。</p> <p>①は「近江型黒色土器」、③は「須恵器」で高坏と呼ばれる形状のものです。</p> <p>畿内では、平安時代後半頃から黒色土器にかわって瓦器が使用されるようになりますが、滋賀県内では近江型黒色土器が一般的に使用されました。</p> <p>瓦器は、少ないながらも当時の街道沿いで出土しており、街道を通じて当時の都と関連をもっていた可能性が考えられます。</p> <p>①近江型黒色土器                      ②瓦器                      ③須恵器（高坏）</p> 

<p>もんだい5</p>	<p>答えはA「<sup>しゅもん</sup>珠文」、B「<sup>れんじ</sup>蓮子」です。</p>
<p>こたえ A: 珠文 B: 蓮子</p>	<p>Aの「珠文」は軒丸瓦の外区内縁部分に施される円形の凸部を指します。</p> <p>Bの「蓮子」も珠文同様の円形の凸部ですが、瓦の中心に描かれる蓮の実を表現しており、名称が異なります。</p>

【問合せ先】  
 草津市歴史文化財課 〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目 13-30  
 TEL : 077-561-2429 FAX : 077-561-2488 E-mail : bunkazai@city.kusatsu.lg.jp